

# 弓道いばらき

平成 25 年 6 月 第 35 号

発行所 筑西市 中根 361-2  
茨城県 弓道連盟  
理事長 北島 瑞男  
電話 (0296-53-3977)  
http://ibakyuuren.com

## 範士八段 関根村夫先生を悼んで



茨城県弓道連盟 会長 柴田 猛

会員の皆様のご協力を得て平成24年度の諸行事も滞りなく終えることができました。ここに紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

関根村夫先生には、さる2月16日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。先生は昭和2年に生まれになり享年85歳でした。先生は昭和47年三和町(現古河市)の体育協会主催の弓道教室に学んだことがきっかけになり弓道の道にはいられました。当初は中澤龍教士に師事し、後に矢吹三郎範士の指導を受けられました。努力の成果がメキメキと表れ昇段、昇格し、平成10年5月八段を取得、平成12年5月に範士に推挙されました。この間、茨城県弓道連盟理事長(平2〜7年)、副会長・顧問を歴任。全日本弓道連盟評議員、中央審査員、中央講習会講師を任命され、弓道連盟発展・充実に多大な貢献をされました。先生のご功績に対し平成11年、市から体育功労賞、平成21年に文部大臣表彰、平

成22年旭日単光章の叙勲の栄に浴しました。先生が常に穏やかな態度で接し、弓の指導に於いても分かりやすく丁寧に話されている姿が目に見え、かみりります。

関根先生は昭和47年(45歳)から弓道を始め、昭和57年(55歳)に7段に昇段されています。先生の弓道への熱意と努力が実を結び弓の道に入ってから10年で7段取得という素晴らしい記録を残されました。古い話になりますが三段跳びの世界記録保持者であるウイリーバンクス(今年3月来日)は中京大学での講演で、日本人は世界チャンピオンにはなれないと言っていました。なぜなら①日本人は高い目標がない②他人と違うことをする勇気がない③失敗したらイヤなという気持ちが強すぎる④自分自身に自信がないと話しています。

して成し遂げた素晴らしい先生でした。「継続は力なり」と言われますが先生の後に続く私たちは先生の業績に近づくべく精進努力をしたいものです。関根先生どうぞ向こうの世界から私たちを見守っていてください。

関根先生のご冥福をお祈りいたします。

さて、昨年の県外大会を振り返って見ると国体ブロック予選では成年男子(久保田亮(日製日立) 大森陽平(蒼藤) 山口純(蒼藤) が予選を通過して本国体に出場することができました。本国体(岐阜県恵那市)では遠的4位に入賞。全国教職員大会団体3位(飯塚尚人(新利根)、辻尚宏(土浦亀城)、後藤裕一(土浦亀城)、全国自衛隊弓道大会では三四段の部2位大崎優、隊友の部2位大貫富士雄(小川)。明治神宮大会称号者の部優勝橋本真也(水戸)。第30回全国高校選抜大会女子個人3位菅谷円美(土二高) 第31回全国高校選抜大会女子団体5位清真学園。(以上全国大会のみ) それぞれの入賞おめでとうございました。ここ3年間全弓連主催の成績は振るわず点数も伸び悩んでいます。更なる精進を期待いたします。

8段(天冨子) 1名の21名の合格でした。昨年は13名、22年は18名でしたが少しずつ合格者数が増加してきていますが、会員各位の更なる精進を願うものです。

今年度の全日本弓道連盟の指導方針は「基本を大切にすること」です。教本第一巻を読み直して射法八節・基本体を確認していただきたいと思えます。従って、執り弓の姿勢・立ち方・歩き方・坐り方・矢番え動作・射法八節・開き足・入退場・足捌き等は審査の対象になります。十分稽古をして射品射格の顕現に努め審査に臨んでください。

努力目標は昨年同様ですが以下のように考えております。

1. 競技会・講習会への積極的参加を
2. 射法射技・体配の向上に努める
3. 弓道人口の底辺拡大に努める
4. 弓道を通して自己実現に努める

平成31年には茨城国体が開催されます。何かと忙しくなります。平成25年度から本格的な準備期間に入ります。会員皆様のご協力をお願いします。



専門部だより

指導部



部長 助川 末廣

本年度の講習会は三四段、五段、錬士、錬士、それぞれ

れ会の充実を目標に実施したいと考えております。弓道は基礎基本はもちろんですが、見どころは会、離れ、残身にあると思います。不動の会、冴えた離れ、伸びのある残身がいかにしたら……弓道人なら皆望んでいることだと思えます。また、三四段においては体配の研修：基本動作の習熟、入退場の習熟、五段は入場から退場までの体配習熟、持ちの射礼における体配習熟、錬士は持ちの射礼のより高い質の向上、教士は一つの研修、矢渡しにおける介添えの研修と指導力の向上を重点に実施したいと思えます。講師の先生方にはよろしく願います。

講習会を通して受講生個々が自分にあった射法が身につけば審査、大会において良い結果が出て

くることと思えます。指導部といまして審査での昇段、昇格者が一人でも多くであることを願っております。部員一同弓友会員の期待に答えられるよう充実した講習会になるよう努力していく所存です。また、本年度より講習会の締め切り日までに申し込みがないときは受付できない場合もあります。すからご協力の程お願い申し上げます。

審査部



部長 大峰 芳樹

審査事務につきましては、常日頃よりご協力をいただき

きありがとうございます。新年度を迎えまして、審査部一同心を新たに頑張る所存です。

現在、公益財団法人全日本弓道連盟として、新たな取り組みを先の方でご協議がなされているところで。

特に地方審査事務につきましても全国的に統一された内容に向けて検討を重ねられております。全日

本弓道連盟は一昨年、一般財団から公益財団となり、今後示される運営方針等に基づき誠心誠意努めてまいり所存でございます。

審査部では県内開催の審査会の運営及び県外審査として定期中央審査、臨時中央審査、連合審査、一般審査及び特別審査の手続きをしております。

県内審査では、平成24年度も一般審査を3回、中高生審査を4回実施しております。特に、中高生審査では5月と12月は受審者が多く、水戸会場、土浦会場、取手会場の三つの会場を同日に実施しております。会場のキャパシティにより、会場の変更などご協力を

いただいております。平成24年度は、一般審査及び中高生審査で2,680人が受審されております。前年度と比較しますと410人の増となっており一般及び中高生ともに前年度を上回る結果となっております。

以上のように、大変多くの方々の審査事務を担当させていただいておりますが毎年盛況になることを望んで止みません。

県内開催の審査会場においては、審査員の先生方が一日中受審者の体配、行射などの一挙手一投足を見つめる姿、そして、今日まで受審者を指導してこられた先生方の真剣に見守る姿、それ以上に緊張して審査に臨む受審者の姿を目にしております。

受審者の方々の日々の稽古の中で、射法八節による正しい姿勢で正しい射を指し、背骨を伸ばし胸郭を広げて左右の均衡を図り、気力を丹田に納め満を持しての精神の集中から生まれる正確な中を求める姿となっております。これらを尽くしても的中しないとき

の原因はすべて自分自身に起因することです。自己反省の繰り返しに立つての審査です。

今後とも、これらの審査会場が審査し易くまた受審し易い環境を願って進めてまいりたいと考えております。

なお、県内審査規定では、「審査の手続き」として、ア 所定の審査請求書用紙を用いる。イ 審査請求書の送付にあたっては、「弓道級・段位審査申込書」を添付すること。ウ 審査料の納付(ア)所属支部長または顧問が一括して、審査毎に審査事務局の郵便振替口座に振り込む。(イ) 振替用

紙の通信欄に、審査場所、期日、支部名・学校名および送金の内訳を明記すること。エ 審査申込締切期限は、県内審査実施日の20日前迄(必着)。と規定されております。

審査事務局では、細心の注意を払い、審査請求書の受付・内容の確認、受審者の人数の把握とともに審査部宛の郵便振替口座への審査料などの入金の確認の後、審査請求書に記載の個人IDから全日本弓道連盟システムによる審査名簿・立ち順表の作成を行っております。従いまして、スムーズに事務処理が出来ますように県内審査規定を順守し申し込みをお願いするものです。特に、「弓道級・

段位審査申込書」を添付すること及び振替用紙の通信欄に、審査場所、期日、支部名・学校名および送金の内訳を明記していただくことを重ねてお願い申し上げます。

最後に、受審者にとって、受審し易い環境に努める所存ですが、武道館は年間の行事がかなり多く、試験会場や控えの場所の確保が難しくなっております。

審査員や受審者にご迷惑をお掛けしておりますが何卒ご容赦のほ

どお願い申し上げます。

## 競技部

部長 大貫 富士男



平成25年度に入り、前競技部長 森先生が茨城国体

準備室の専属担当に任命されました。後任として、競技部長を仰せつかりました小川支部の大貫です。副部長として新たに土浦支部の来栖茂と牛久支部の高木勉が入り、引き続き平原副部長（玉里酔心館支部）の陣容で、歴代部長の教えを守り、誠心誠意努めてまいります所存でございますので何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 1 前年度の大会運営

昨年度は県内大会、県外大会ともに県弓道連盟会長ほか、役員、会員の皆様のご尽力によりスムーズに運営され無事終了することができました。

### 2 競技力向上について

大会参加の目的は、上位入賞や

上位大会参加を目指す人、日ごろの稽古、練習の成果が出せるか試す人、雰囲気を楽しむ人、上手な選手を見て見取り稽古をする人、さまざまだと思います。しかし、結果の自己評価がなされているのでしょうか。そして次の大会に生かされているでしょうか、そのところを少しずつ改善し、欠点を修正し向上して良い成績に結び付けたいものです。

各大会実施日には遠的射場の開放により誰でも遠的の練習が実施できる状態です、全国大会につながる県大会もあります、また、国民体育大会では遠的競技は必修項目です、あなたも国体参加の選手に選出されるかもしれません。近的射射が小さくなっている人、なんとなく射がまとまらない人は、遠的の実施により大きく引き矢筋に大きく離す動作を実施することにより改善することができるともいけません。ぜひ、新しい経験をしたいと希望します。

### 3 本年度競技運営

本年度の競技運営につきまして、は歴代部長が築き上げた方式を継

続していきます。

大会の運営については各地区理事長を運営責任者として地区から選出された会員の方々のお力により運営されるシステムになっております。

運営がスムーズに進められるように大会ごとに「競技運営要領」が作成され、事前に配布することで係りの会員が迷わずに業務を進めることができるようにと考えております。

これからも競技運営要領の不具合を訂正しながら進化させていきたいと思っておりますので、不具合を感じた時にはご提案を頂きたいと思っております。

### 4 大会の参加を通じて

射位に臨むとき気持ちは研ぎ澄まされていることと思います。その時に控の付近から聞こえる大きな声は選手の激励にはなりません。お話は観覧席等でお願ひしたいと思ひます。

また入場、退場は体配の大切な動作の実施時です、特に退場時は射場の敷居を過ぎてからの射手の動作を5歩までは妨げないでいただきたいと思ひます。

いろいろ述べましたがまた大会に参加されていない会員の人達もたくさんいるかと思ひますので是非お誘いの上、県連行事に参加頂きたいとお願ひいたします。今年度は昨年度より少しも良い運営が出来るよう尽力いたしますのでよろしくお願ひいたします。

## 強化部

部長 竹之内 正宏



○平成24年度の反省  
昨年8月に東京で開催された関東ブロックでは、男子が5

位で通過、女子が不通過というも一つの成績でしたが、10月に岐阜県恵那市で開催された本国体では、成年男子 遠的で4位に入賞し、天皇杯入賞得点15点を獲得することができました。

選手の頑張り感謝するとともに、柴田会長をはじめ、県連の皆様、茨城県体育協会、茨城県武道館のご支援、ご協力を御礼申し上げます。

昨年男子については、結果と

しては本国体入賞しておりますが、なんと関東ブロックを通過出来たという状態であり、まだまだ、全国の強豪県との力の差は明白なものがあります。特に近的レベルアップが急務であると感じております。

また、女子については、選手のレベルアップとともに、選手層の拡大が必要であると考えます。選手層の拡大は、選手強化部として対応していく部分でありますので、各支部のご協力が必要です。各支部におかれましては、高校・大学での弓道経験者で県内に就職された方などの国体に興味のある弓友の発掘にご協力をお願いいたします。

なお、男女共通の問題として、仕事が忙しく、練習にさける時間が少なくなっていること、および、道場の使用時間に関する制限が厳しくなっているなどの練習量を確保することが難しい状況にある方が多くなっています。練習が出来る場所を探すことは、選手自身の問題ではありますが、強化部としても練習の機会を可能な限り設定し、練習環境の整備を図っていききたいと考えます。

○平成25年度の目標

- ①勝つても負けてもかつこ良く引ける選手を育成すること
- ②男女両種別で、関東ブロックを通過すること
- ③魅力ある強化練習を計画し、選手層を拡大すること

今年度もご支援、ご協力を宜しくお願いします。

最後に、6年後の平成31年には地元茨城で国体が開催されます。国体に出場したい、または興味がある方がおられましたらば、選手強化部までご連絡下さい。

施設部



部長 園部 俊雄

平成24年度は茨城県弓道連盟以外の大きな大会はな

く、例年通りの行事が滞りなく実施されました。これもひとえに各地区当番の皆様のご協力の賜物と

あらためて感謝申し上げます。平成25年度も前年同様の行事予定となっております。引き続き各地区当番のご協力をいただき、大会等に万全を期していく所存です。で、よろしくお願い申し上げます。大会等に使用する備品と収納場所を列記いたしますので、当番になった地区の皆様はこの表を参考に活用下さい。

近的使用品

	備品名	備考
茨弓連倉庫(常時施設錠 鍵No.68)	尺二霞的	
	赤旗(2本)	
	的设置用傾斜角度付き折りたたみ物差し棒(2本)	
	ひざかけ毛布、スリッパ	プラスチック衣装箱
	立ち位置測定用丸棒(2本)	
	マイクスタンド(1基)	
	「今の立」「次の立」マグネット付き表示板	競技部ロッカー
	放送用アンプ(1台)、マイク(2本)	競技部ロッカー
	黄色小旗(2本)	競技部ロッカー
	トランシーバー(6台)	競技部ロッカー
	テーブルタップ、延長コード	競技部ロッカー
	赤マット	入口左側木製ロッカー
矢渡し用表示板	入口左側木製ロッカーと壁の間	
○×表示用マグネットシート	審査部ロッカー	
電気毛布	審査部ロッカーの上	
共用倉庫(常時無施設錠)	立ち板(1~3)(4組)	
	防風つい立(4枚)	
	小型石油ストーブ(2台)、 中型石油ストーブ(2台)	
	工業用扇風機(2台)	
	家庭用扇風機(2台)	
控室	間仕切り用つい立て(3枚)	
	目隠し長机(6脚)	

遠的使用品(晴天時)

遠的場合倉庫(常時無施設錠)	立ち板(1~3)(2組)
	「立ち入り禁止」の立看板(2基)
	グレーマット(晴天時近场的場~遠的場通路用)
	すのこ(5枚) 遠的場出入口用

地区だより

日立地区

日製日立支部 伊東 喬

日立地区は、北から北茨城市、高萩市、日立市8支部(日立市、日立中央、日鉦金属、日立セメント、日立みなみ、鳴和、日立電線、日製日立)、原子力機構、東海村2支部(東海村、東海村役場)の13支部・約150名の会員で構成されています。本地区には、弓道を愛好する3つの歴史を重ねた大会があります。

「県北弓道振興会」(第1回昭和25年)、「村松山大会」(第1回昭和47年)と「日立地区高齢者弓道会」で、今回は日立地区高齢者弓道会について簡単に紹介します。設立は昭和62年で昨年末で99回の大会を記録しました。初代会長は鎌田利先生(故人磯原俱樂部/現北茨城市)で初回大会優勝者でもあります。以下2代会長花輪武(故人日立セメント)、

3代室橋一孝(故人慈弓会)、4代松山芳雄(故人東海村)、5代箭内正男(北茨城市)、6代(増田英一現日立中央)が歴任し、毎年3~5回の大会を重ねていますが、会員の高齢化により、平成23年より2回となり、現会長7代目田村章先生(北茨城市支部長)のもと、参加者10数名で活躍しています。

今年5月には、第100回を迎えますので、会員相互の親睦と健康維持を図りながら、大会が盛大におえられるよう切望しています。

また、4月7日には第42回「村松山弓道大会」が、500名強の参加者のもと開催。6月には第185回「県北弓道振興会」弓道大会を参加者100名前後で開催を予定しています。

さらに嬉しいニュースを紹介しておきます。

それは、二年前の東日本大震災で大きく損壊した「市民運動公園中央体育館」の建て替え計画が出され、新たに、日立市教育委員会のもと、「新体育館建設整備基本計画」が纏まり新聞報道されました。この中ではメインアリーナ、サブアリーナに加え、武道場や弓

道場も建設予定とのことで、完成はまだ先ではありますが、日立市のほぼ中央に念願の「弓道場」が計画されていることです。

この案は、元日製日立支部の柴田祐先生（故人平成24年）が、平成5年に「私の弓道人生」と題して小文を残し、その中で「日立市池の川体育館または神峰公園近くに、市弓道場（せめて6人立ち）を建設し、人生道場としての場をつくってほしい、長年の希望なのです。」と望んでいたのを思い出します。

各支部をはじめ、前述の弓道愛好グループのメンバー共々、一日も早く全体像が見られるよう望んでいるところです。

### 水戸地区

茨城高専支部 根本 栄治

茨城県の中央に水戸地区があり、16支部、290名+α名の弓道連盟会員が連盟に属し、大会に参加活動している。

本年も、ひたちなかのかつお釣り大会、笠間の菊祭り大会、年度末の観梅大会が盛大に行われた。

これらの水戸支部の試合は、茨城県弓道連盟の目玉の大会になっている。

ここで、弓道の近未来の懸案事項について目を向けてみたい。中学では、学校教育の中で武道の選択必修が拡大され、弓道が柔道、剣道とともにその選択科目の中に入り、その準備が行われている。現在の中学校では、弓道を指導できる先生の数には限りがあり、弓道を指導できる指導員を必要としている現状である。この状況は、茨城県、惹いては水戸地区にも波及している。すなわち、弓道を指導できる多くの公認の弓道指導員を必要としている。よって、これらの要望に適切に答えるためには、水戸地区に所属する各支部に公認の弓道指導員、もしくはそれらの有資格者を育成するための十分な弓道場、練習場を確保することが早急に必要となっている。

さて、水戸地区に所属する各支部が、十分に活動できる弓道場をどれほど確保し練習に励んでいるであろうか？はなはだ疑問である。各個人会員が自己負担し、弓道場を造るべきであろうか？答えは否である。

本来の弓道人の姿は、練習するのに道場使用料がかからず、自由に何時間でも、いつでも練習できることであろう。我々は、このことを再考する必要があると思われる。弓道場を充実させるための最善の方策は何であるか？今ここに、弓道人として改めて提案したい。各地区の支部長、評議員、会員各位は、リダーシップを発揮され、市や町の有力者、教育委員会等に働きかけて各支部、各地区の弓道場をさらに充実すべきものと思うが、如何であろうか？このことにより始めて、県弓道連盟の活動がより活発になり、弓道を指導できる優れた弓道人を輩出し、将来を担う多くの若き弓道家が育つのではあるまいか！

### 石岡地区

美野里支部 丸 三郎

石岡地区には、石岡市、航空自衛隊百里、玉里酔心館、桐弓会、美野里、八郷、小川の7支部があります。日常の稽古に励むと共に、各種弓道行事に積極的に参加し活発な活動下にある支部もあります。が、部員の減少や、多くの部員が現役世代で稽古時間の確保がままならず活動が鈍くなっている支部もあるというのが現状です。

部員で活動していますが、4月から2名の入部が予定されています。

稽古日は、通常、月、火、水、金、土、日で、酔心館道場で稽古に励んでいます。平成24年度は、各種弓道大会に積極的に参加し好成績を得ることができました。尚、支部の活動状況等につきましては、ホームページとブログを開設していますので、「玉里酔心館」では是非検索してみてください。他の支部につきましては、次年度で紹介できることを期待しています。

### 鹿行地区

山王会支部 菊池 健介

石岡市支部は、総勢27名の部員が芹澤記念弓道場で稽古に励んでいます。練習日は、元旦から大晦日まで休館日は無しです。稽古のかたわら、月例射会、花見射会等折に触れ各種射会を実施しています。一方、石岡市の体育協会に加盟している関係から、毎年12月に、「石岡市親善武道大会」として「弓道の部」を主管して開催しています。弓道教室としては、昭和55年から支部主催で開催し続けていますが、現在32期生まで修了しています。今後とも活発な活動を続けたいと考えております。

玉里酔心館支部は、現在9名の

山王会支部は茨城県立鉾田第一高等学校弓道部OBで構成されており、現在部員数12名と少数で、和気あいあいとした支部です。山



関東信越地区高専弓道大会（茨城高専弓道場にて）

王会を開設するきっかけは、高校卒業後に弓を引きたいけれど、一般の支部に加盟するのは気が引けてしまうという声が多く、自分たちを含め卒業後もより多くの人が弓道をしていけるよう、母校の鉾田第一高等学校がある山王台から名前をとり、山王会として設立いたしました。活動日は毎週土曜日の夜に母校である鉾田第一高等学校弓道場をお借りして活動しております。道場内には「術よりも精神を学べ」という掛け軸が飾っており、各部員は射術のみならず、精神面の向上にも努めて、日々修練しております。まだまだできて間もない支部ではありますが、毎年鉾田一高弓道部の卒業生が新たに加入しており、支部開設時にくらべ盛んになってまいりました。

定例行事としました、毎年春と秋に鉾田第一高等学校弓道部の現役生とともに交流試合を計画し、開催しております。こういった活動が支部員確保につながっていると思います。

また、前年は当支部から国体選手を輩出することができ、非常にうれしく思うとともに、支部内の士気も上がりました。



山王会は現在20歳から27歳と若い会員が多く、無段から三段までなので各試合に参加することも、昇段審査を積極的に受け、支部員の底上げが今後の課題となっております。

なにかと至らぬことが多く、ご迷惑をおかけすることがあるかとは思いますが、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りながら精進してまいる所存ですので、今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

### 土浦地区

新治支部顧問 国谷 保五郎

#### 新治支部のこの頃

六名の小さな支部に落ち込んだ新治支部は、三年前突然二倍の十二名に増えた。最後の第二十回山桜弓道大会を実施する半年前のこと、土浦工業高校弓道部のOBが七名、一度に入会してくれた。今まで少人数で嘆いていた我が支部は一度に賑やかになった。支部では毎週土曜日の午後が週一回の練習日になっている。三週連続競射優勝者がいれば、二十センチ×三十七センチの表彰額を道場の棟木に打ち付けることになっている。成績互角のこの頃、三週連続をだすのはなかなか難しい。そのためか、競技中は静寂そのもの、実に真剣で無駄口は一切でない。計四十射引くが、冬期は三十二射になる。開始にあたっては支部長の先導でいっせいに神前に二礼二拍手の後、次の言葉を節をつけて私が歌う。

「すべては神の、授けなり、唯ひたすらに、務むべし」  
「すべては神の、恵みなり、

唯ひたすらに、尽くすべし」次に支部長が次の文章を朗読する。

「弓道は心技体を丹田磐石の息合いで、的に濃縮、結晶させ、心身弓、三位一体、均衡の美を、五重十文字に具現する、気迫の芸道である」と。

競技はまず、射詰を持ち射礼で厳粛におこなう。次に四ツ矢十回を三人立ち立射でマイペースでおこなう。その時、始めの四ツ矢だけは矢声を元氣よくかけることにしている。

競技の表彰の種目は七種目ある。優勝三回連続を競うのが四十射と射詰めの二種目。

当日の自分の成績で決まる賞が、十四射以上連中賞、二十四射十九射以上賞、三十二射二十四射以上賞の三種目。また始めの六射四中以上を三週連続達成したときの記念賞がある。その他、当日に射詰優勝、競射優勝、金的優勝の三つを達成したときの三冠王があるが、めったにでない。十年前に私、一昨年に支部長の助川さんが出して以来でない。

表彰額は今までに計十枚上がっている。

昨年は支部対抗戦で八位に入りました。また、今年のかすみがうら市長杯では、射詰優勝、団体優勝、個人優勝をいただいた。ありがたいや、この幸運に感謝して唯ひたすらに 勤め 悔いなし



### 県北地区

大子支部 岡村 広

#### 「第50回奥久慈弓道記念大会」

県北地区からは、今年の平成24年10月20日(土)に開催された第

50回奥久慈弓道記念大会について報告いたします。

奥久慈弓道大会は、昭和51年4月11日に第1回が開催されてから、今回は50回目を迎えました。

初期のころは、春季と秋季の年2回実施していましたが、平成4年からは年1回秋季大会だけの開催になっています。

当時東北地区には、指導者が少なく特に大子支部においては、自己流の弓を引いておりました。

このような状態を改善すべく県北近隣の弓友に呼びかけ、技術の向上と交流という事を目的に実施されてきました。

当日は、東京理科大学大子研修センター(旧大子二高弓道場)において、県内は掘原・友部・日立・茨城町・日製日立・大子の各支部からの参加、県外からは、東京第一・那須塩原支部の参加者もありました。

大子町長・体育協会長を来賓に招き祝辞を賜りました。

大子支部長の堀江 栄錬士六段の矢渡し後8射競技が行われました。

優勝は7中で大子支部の荒井康雄氏・準優勝は6中で日製日立支

部の根本イ喜哉氏・3位大子支部の大高光基氏、余興の部は金的賞

大子支部大高光基氏・銀的賞堀原支部山次禎次郎氏・鮎的賞大子支部荒井康雄氏・りんご的賞大子支部羽石彦哉氏という結果でした。

支部会員の高齢化に伴い部員が減少している中、大会運営もぎりの所にきています、参加者の協力を頂きながら今後も奥久慈弓道大会が続けられるよう努力して行きたいと思っております。



### 県南地区

蒼藤会支部 菊地 祐太

県南支部の平成二十四年度の主な活動として、第十九回県南弓道大会が挙げられます。二〇一二年十一月十一日に行われた第十九回県南弓道大会は、高校の部・一般の部合わせて過去最多の三六一名の参加者を賜りまして、盛大に開催することができました。今回の第一九回県南弓道大会は、蒼藤会支部が実行委員長として活動いたしました。私の所属する蒼藤会支部は、平成二十一年度より茨城県弓道連盟の支部として設立し、平均年齢二十一歳の若い支部です。支部設立以降、県連の大会や県南弓道大会等で、大会の役員として大会の運営・進行等に携わってき

ましたが、大会の実行委員長のよ

安が募る一方でありましたが、県南地区の各支部の方々にご協力いただきまして、無事に過去最多参加人数の県南弓道大会を開催することができました。この場を持つ

てお礼申し上げます。冒頭でも申しましたが、第十九回県南弓道大会は三六一名の参加があり、急速に多数的ご迷惑をおかけいたしました。平成二十五年の県南弓道大会は、第二十回であり二十周年を記念した記念大会を想定しております。昨年度同様またはそれ以上の参加人数になると見込まれますので、昨年の反省を生かしまして、第二十回記念大会を開催する予定でございますので、今年度も多数のご参加をお待ちしております。



### 会議報告

#### 県外

全日本弓道連盟定時評議員会

(東京都 6/6 柴田)

全日本弓道連盟臨時評議員会

(東京都 11/28 柴田)

関東地域弓道連盟連合会会議

(東京都 4/9 柴田)

関東地域弓道連盟連合会会議

(上尾市 9/30 柴田)

全国地連会長会議

(東京都 11/28 柴田)

#### 県内

専門部長会議

(武道館 H25/1/20)

理事会

(武道館 H25/2/23)

代議員会

(武道館 H25/3/16)

### 研修事業報告

#### 県外

〔関東〕(北) 地区指導者講習会

(千葉市 H5/12/13)

明間 勲、白石直之、

宮崎康美、山村 晋、

中井川 一郎、海老根芳江

中央研修会

(東京都 H10/12~14)

明間 勲

(関東)(北)

地区指導者育成講習会

(千葉市 H7/21~22)

竹之内正宏、高木 勉

小出則行、梶 直子

辻 尚宏、久保田浩一

学校指導者講習会

(前橋市 H7/28~29)

染谷 学、千葉一茂

県内

講師審査委員講習会

(水戸 H24/4/1) 58名

三四段講習会(第一回)

(水戸 H24/5/12) 70名

錬士研修会(第一回)

(取手 H24/6/9) 41名

教士研修会(第一回)

(水戸 H24/6/24) 29名

高体連審判員講習会

(水戸 H24/7/16) 93名

支部指導者講習会

(水戸 H24/7/21) 56名

五段講習会(第一回)

(水戸 H24/7/29) 41名

教士研修会(第二回)

(土浦 H24/8/19) 26名

三四段講習会(第二回)

(土浦 H24/9/2) 64名

教職員講習会

(土浦 H24/9/30) 21名

中体連ジュニア強化練習会

(水戸 H24/10/6) 120名

五段講習会(第二回)

(土浦 H24/10/14) 48名

スポーツ振興講習会

(水戸 H24/10/20) 57名

錬士研修会(第二回)

(水戸 H24/11/17) 39名

述べ参加者数 763名

県外大会 一般

第63回全日本弓道大会

(京都市 H■5/2~3)

射詰2本の中

・藤崎 岳人、黒杭 正吉、堀越 沙季

第59回全日本勤労者弓道選手権大会

(東京都小金井市 H■6/8~10)

・日立製作所A(茨城)

(新山晃一、森實 裕人、石井 誠)第1次予選不通過

・日立製作所B(茨城)

(久保田 亮、笹沼 健一、木元 雄太)第2次予選不通過

第50回関東教職員弓道大会

(上尾市 H■9/16)

(ぐんま武道館 H■7/1)

・男子の部

個人3位 岡見 伸行

第43回全日本教職員弓道選手権大会

(中央 H■8/11~12)

・男子団体 茨城D

決勝トーナメント

第3位(飯塚 尚人、辻 尚宏、後藤 裕一)

・女子団体 茨城

(大金 喜代子、野田 君江、木村 亜紀子)

決勝トーナメント1回戦で敗退

第67回国民体育大会関東ブロック大会

(東京都小金井市 H■8/19)

・少年男子

近の 7位 遠的 6位

総合 7位

・少年女子

近の 8位 遠的 6位

総合 6位

・成年男子

近の 6位 遠的 3位

総合 5位

・成年女子

近の 8位 遠的 6位

総合 7位

第53回関東地域弓道選抜選手権大会

(上尾市 H■9/16)

・有段者の部

(大久保雅揮、上田有香、門井寿通、古土土百合子、菊地俊和)

・有段者の部

大会賞

第3位 菊地俊和

全日本弓道連盟賞

第3位 菊地俊和

・称号者の部

(清水 匡、林田國洋、辻尚 宏、林田幸子、中井川一郎)

第63回全日本男子弓道選手権大会

(中央 H■9/19~21)

・天皇杯(山村 晋、明間 勲)

第45回全日本女子弓道選手権大会

(中央 H■9/21~23)

・皇后杯

(柴原一利子、林田幸子)

第67回国民体育大会

(恵那市 H■10/6~8)

・成年男子

(久保田亮、大森 陽平、山口 純)

遠的トーナメント進出 第4位

第25回ねりんピック2012宮城大会

(仙台市 H■10/13~15)

・優秀賞

第30回全国高等学校弓道選抜大会

(岐阜県 H■3/23~25)

・男子団体の部

(高橋義之、武田美代子、川端達夫、鈴木正太郎、郡司武満、根本信哉、木ノ内秩子、坂本 允)

決勝トーナメント2回戦進出

第62回全日本弓道遠的選手権大会

(中央 H■10/26~28)

・男子の部

県外大会 高体連

準優勝 太崎 優

準優勝 大貫富士男

隊友の部

優勝 橋本真也(教士八段)

第40回全自衛隊弓道大会

(中央 H■12/2)

有段者の部

10位 山口 純(四段)

称号者の部

優勝 橋本真也(教士八段)

第40回全自衛隊弓道大会

(中央 H■12/2)

・参・四段の部

準優勝 太崎 優

隊友の部

準優勝 大貫富士男

隊友の部

優勝 橋本真也(教士八段)

第40回全自衛隊弓道大会

(中央 H■12/2)

・参・四段の部

準優勝 太崎 優

隊友の部

準優勝 大貫富士男

隊友の部

優勝 橋本真也(教士八段)

- 予選通過 石岡商業
- 女子個人の部
- 3位 菅谷円美 (土浦二)
- 女子団体の部
- 5位 清真学園高校

第56回関東高等学校弓道大会

- (東京都 H■6/2~3)
- 女子団体の部
- 3位 清真学園高校

第57回全国高校弓道大会

- (長野県 H■8/1~4)
- 男子団体
- 予選通過 下妻一

女子団体

- 決勝2回戦進出 清真学園

大会弓道競技

- (東京都 H■8/18~19)
- 少年男子
- 近的7位 遠的6位 総合7位

少年女子

- 近的8位 遠的6位 総合6位

権選抜大会

- (東京都 H■9/8~9)
- 男子の部
- 1位 新宮大希
- 2位 武石 衛
- 5位 和田啓佑
- 8位 鈴木大介

第31回全国高等学校弓道選抜大会

- (神奈川県 H■12/24~26)

- 女子団体の部
- 準優勝 太崎 優
- 3位 山口恭弘

県外大会 中体連

全日本少年武道(弓道)錬成大会

- (日本武道館 H■7/14)
- 第23回関東中学生弓道大会

男子団体の部

- 3位
- 男子個人の部
- 優勝 富樫直人(東海南中)
- 5位 加藤 匠(千波中)

女子個人の部

- 4位 伊能 舞(清真学園中)
- 第10回全国中学生弓道大会
- (中央 H■8/25~26)

茨城県弓道連盟主催(主管)県内大会

勤労者予選会

- H23/3/4

団体

- 優勝 日製(日立) A
- 準優勝 日製(日立) B

個人

- 優勝 久保田亮

春季大会

- H23/4/29

団体

- 優勝 竜ヶ崎
- 準優勝 笠間
- 3位 神栖 A

男子の部

- 優勝 菊地正光
- 準優勝 木森悟司
- 3位 山口 純

女子の部

- 優勝 水野希美
- 準優勝 吉田節江
- 3位 村松喜久代

称号者

- 優勝 小泉公子
- 準優勝 山口恭弘
- 3位 柴田隆子

優秀賞(団体)

- 蒼藤会(第一射場)
- 龍ヶ崎(第二射場)

優秀賞(個人)

- 山口 純、関口孝久

選手権称号

- H23/5/27
- 男子の部

- 優勝 辻 尚宏
- 準優勝 中井川一郎
- 3位 清水 匡

女子の部

- 優勝 林田幸子
- 準優勝 柴原一利子
- 3位 小島幸子

最高得点

- 男子 山村 晋、明間 勲
- 女子 柴原一利子

選手権有段

- H23/6/10
- 三段以下
- 優勝 小林美環
- 準優勝 菅谷守文
- 3位 中根奈津美

四・五段

- 優勝 大久保雅揮
- 準優勝 山口 純
- 3位 菊地俊和

最高得点

- 初段以下 下山 幸
- 二段の部 荒木 誠
- 参段の部 平根伸彦
- 四段の部 大森陽平
- 五段の部 藤崎岳人

男三段以下

- 優勝 永田修一
- 準優勝 吉川博史
- 3位 加藤弘志

男四段以上

- 準優勝 小幡貴司
- 3位 関口直樹

女三段以下

- 優勝 下山 幸
- 準優勝 河原加奈枝
- 3位 水野希美

女四段以上

- 優勝 沖田紀子
- 準優勝 杉山 泉
- 3位 宮田はるみ

称号受有者

- 優勝 来栖 茂
- 準優勝 村山久行
- 3位 石井 誠

遠の大会

- H23/7/15
- 男四段以下
- 優勝 尾吹将大
- 準優勝 久保田亮
- 3位 稲見真人

男五段以上

- 優勝 高木 勉
- 準優勝 平戸信行

県民総体

- H23/6/17

3位 幕内雄基  
 ▼女四段以下  
 優勝 草下理恵子  
 準優勝 清代しおり  
 3位 中根奈津美

▼女五段以上  
 優勝 石井和子  
 準優勝 小島幸子  
 3位 柴原一利子

▼二段以下  
 優勝 小松滉佑  
 準優勝 西岡ひかり  
 3位 下山 幸

**夏季練成**

H23/8/26

5人立団体戦  
 優勝 日製(日立)  
 準優勝 土浦A  
 3位 土浦亀城A  
 下館B

▼四段の部  
 優勝 福田直子  
 準優勝 槇島健一  
 3位 笹沼健一

**中野杯**

H23/9/9

▼男子の部  
 優勝 宮本和明  
 準優勝 熊谷博明  
 3位 唐澤 章

▼女子の部  
 優勝 上馬英子  
 準優勝 河原加奈枝  
 3位 宮田はるみ

▼称号受有者  
 優勝 福地 平

準優勝 田口敏朗  
 3位 高木 勉

**段位別**

H23/9/16

▼三段の部  
 優勝 熊谷博明  
 準優勝 加藤木保  
 3位 鈴木慎也

▼五段の部  
 優勝 菊地俊和  
 準優勝 上田有香  
 3位 宮本和明

▼称号受有者  
 優勝 橋本真也  
 準優勝 佐藤三男  
 3位 米山良美

▼優秀賞  
 式段以下 小松滉佑、下山 幸  
 参段の部 中根奈津美  
 四段の部 藤枝秀平  
 五段の部 関口孝久、小幡貴司

**武道フェスティバル**

H23/11/10

▼男子の部  
 優勝 藤田悟瑠  
 準優勝 渡邊修也  
 3位 荒井義樹

▼女子の部  
 優勝 大西麻友  
 準優勝 田中理奈  
 3位 伊能 舞

**支部対抗**

H23/11/25

▼3人立団体戦  
 優勝 水戸桜川A  
 準優勝 日製(日立)B  
 3位 藤代B、土浦A

**ネリン予選**

H23/12/3

▼選手候補  
 林田幸子、村松匡登、船越 忠  
 久保善雄、堀江 榮

▼監督/交代選手  
 浅見勝晴、齋藤ミユキ、  
 岩間捷雄

**新年射会**

H24/1/20

**▼三段以下**

優勝 佐々木則子

・男子  
 優勝 小井戸隆文  
 準優勝 谷田部大地  
 3位 渡部洋介

・女子  
 優勝 相原利恵  
 準優勝 藤田里香  
 3位 市川裕美

▼四・五段  
 優勝 斎藤達雄  
 準優勝 小沼隆史  
 3位 斎藤達雄

・男子  
 優勝 菊地俊和  
 準優勝 中根奈津美  
 3位 和田恭子

・女子  
 優勝 財津昌子  
 準優勝 中根奈津美  
 3位 和田恭子

▼称号受有者  
 優勝 清水正己  
 準優勝 橋本真也  
 3位 駒場孝司

・女子  
 優勝 小武内弘子  
 準優勝 高羽京子  
 3位 萩野谷綾子

**茨城県教職員弓道連盟県内大会**

**春季大会**

H24/6/2

▼男子の部  
 優勝 唐澤 章  
 準優勝 圓城寺賢一  
 3位 高橋義之

▼女子の部  
 優勝 大金喜代子  
 準優勝 佐藤敬子  
 3位 大川都志子

**秋季大会**

H24/12/1

▼男子の部  
 優勝 飯塚尚人  
 準優勝 唐澤 章  
 3位 白石直之

▼女子の部  
 優勝 佐藤敬子  
 準優勝 大金喜代子  
 3位 五十野久恵

▼総合の部  
 優勝 飯塚尚人

高体連県内大会

春季大会 兼 関東大会県予選

H24/5/7(男子)  
H24/5/8(女子)

▼男子団体

優勝 江戸崎総合A  
準優勝 境A  
3位 江戸崎総合B

▼女子団体

優勝 日立一A  
準優勝 藤代  
3位 土浦二A

▼男子個人

優勝 徳永和浩  
準優勝 鈴木大介  
3位 高山圭介

▼女子個人

優勝 内山田咲  
準優勝 菊池紗綺  
3位 板垣由季

高校総体予選 県民総体予選  
全国総体予選 国体茨城大会

H24/6/8・9・11

▼男子団体

優勝 下妻一  
準優勝 鹿島  
3位 清真学園

▼女子団体

優勝 清真学園  
準優勝 佐和  
3位 日立一

▼男子個人

優勝 石塚雅人  
準優勝 和田啓祐  
3位 武石 衛

▼女子個人

優勝 高須有希  
準優勝 菅谷円美  
3位 雨谷利香子

国体選手選考会

H24/6/16(1次)  
H24/6/22(2次)

▼男子の部

候補選手 齊藤伊知郎  
南雲湧斗

▼女子の部

監督 飯塚尚人  
高山圭介

候補選手

平松えり  
平間茜子  
内山田咲  
監督 佐久間和彰

県個人選手権 兼  
関東個人選手権 県予選会

H24/8/24(男子)  
H24/8/25(女子)

▼男子総合

優勝 吉田昌善  
準優勝 鮎川昌輝  
3位 飯村龍太郎

▼女子総合

優勝 平間茜子  
準優勝 出口怜奈  
3位 和田実咲

▼男子1年

優勝 飯村龍太郎  
準優勝 和田啓佑  
3位 坂上航史

▼女子1年

優勝 和田実咲  
準優勝 小野瀬梢  
3位 市村真史

県高校弓道秋季大会

H24/9/19

▼男子団体

優勝 清真学園  
準優勝 水戸桜ノ牧  
3位 江戸崎総合

▼女子団体

優勝 茨城  
準優勝 土浦二  
3位 日立一

▼男子個人

優勝 赤坂和也  
準優勝 和田啓佑

▼女子個人

3位 鴨志田洋輔  
優勝 加藤文音  
準優勝 榎原捺未  
3位 黒田早紀

新人大会 兼 全国選抜予選

H24/11/8(男子)  
H24/11/6(女子)

▼男子団体

優勝 土浦二高A  
準優勝 取手一高A  
3位 下妻二高B、霞ヶ浦高

▼女子団体

優勝 清真学園高B  
準優勝 清真学園高A  
3位 取手一高A、  
水海道一高

▼男子個人

優勝 齊藤俊也  
準優勝 藤原泰平  
3位 河上ルイジ

▼女子個人

優勝 河村美穂  
準優勝 楠本琉夏  
3位 池田桜子

中体連県内大会

県総合体育大会

H24/7/23

▼男子団体

優勝 東海中  
準優勝 東海南中  
3位 太田中

▼女子団体

優勝 竹来中  
準優勝 稲田中  
3位 阿見中

▼男子個人

優勝 澤晶(東海)  
準優勝 川村(東海南)  
3位 加藤(千波)

▼女子個人

優勝 大西(土浦二)  
準優勝 伊能(清真)  
3位 木名瀬(東海)

中野優勝旗大会

H24/7/30

▼男子団体

優勝 千波中A  
準優勝 竹来中A  
3位 東海中A、東海南中D

▼女子団体

優勝 竹来中A  
準優勝 阿見中C

3 位 清真学園A、阿見中A

▼男子個人  
優勝 菅原(竹来)

準優勝 明石(内原)

3 位 松木(東海南)

▼女子個人

優勝 椿(阿見)

準優勝 茂中(東海)

3 位 葉梨(竹来)

県新人大会

H24/11/5

▼男子団体

優勝 清真学園中

準優勝 城西中

3 位 東海南

▼女子団体

優勝 内原中

準優勝 清真学園中

3 位 水戸二中

▼男子個人

優勝 田崎(東海南)

準優勝 柿澤(千波)

3 位 塙(清真)

▼女子個人

優勝 都平(内原)

準優勝 藤井(土浦二)

3 位 鬼澤(朝日)

連盟後援行事

村松山弓道大会

(東海村 H24/4/1)

土浦桜祭り大会

(土浦 H24/4/7・8)

鹿島神宮弓道大会

(鹿島 H24/4/29)

神栖弓道大会

(神栖 H24/5/19)

あやめ祭り弓道大会

(潮来 H24/6/24)

水戸市弓道大会

(水戸 H24/9/30)

あきんど祭り弓道大会

(麻生 H24/10/28)

県南弓道大会

(取手 H24/11/11)

女子大会

(水戸 H24/12/1)

ねんりんピック予選会

(水戸 H24/12/3)

県西弓道大会

(下館 H25/1/6)

観梅弓道大会

(水戸 H23/3/17)

訃報

巻頭の柴田会長のご挨拶にもあり  
ましたように、茨城県弓道連盟顧問  
範士八段 関根村夫先生には、平成  
25年2月16日 逝去されました。謹  
んでお悔やみ申し上げます。ありし  
日の関根先生を偲び、先生の射影と、  
平成22年に旭日单光章を叙勲された  
ときの写真を掲載いたします。合掌



## 平成 24 年度 中央 (臨時) 審査会 合格者

取得	氏名	所属	取得日	審査場所		区分計
教士	関島 勝	東海	H24.7.6	仙台定期中央審査<代替地>	山形	1名
錬士	久保 喜雄	麻生	H24.2.19	錬士号取得特別講習会	東京	10名
	石田 昌嗣	神栖	H24.9.15	関東臨時中央審査	東京	
	大久保雅揮	北総				
	沓掛 忠三	東海	H24.10.20	東北臨時中央審査	郡山	
	正根寺 洋	下館	H24.10.28	関東錬士臨時中央審査		
	大内 和子	土浦				
	福田 弓子	土浦				
	大友 実	神栖				
	荻谷 純生	水戸桜川				
	和泉 武	取手	H24.12.22	特別臨時中央審査	東京	
八段	天 冴子	笠間	H24.6.14	平成 24 年度推薦	東京	1名
六段	河合 徹	阿見	H24.5.27	東海臨時中央審査	岐阜	9名
	境 貴洋	水戸桜川	H24.9.16	関東臨時中央審査	東京	
	荻野 淑江	神栖				
	原田 博	牛久	H24.11.4	東京定期中央審査	東京	
	照井 ひさ	水戸				
	大島 加代子	取手				
	高羽 京子	射友会				
		高木 勉	藤代	H25.2.11	名古屋定期中央審査	
	藤田 君子	神栖				
合 計						21名

## 平成 24 年度 連合審査会 合格者

取得	氏名	所属	取得日	審査場所		昇段者数
五段	中村 丈夫	水戸	H24.2.26	【東京】 関東地域連合審査	東京	1名
	藤井 治	土浦	H24.7.29	【千葉】 関東地域連合審査	千葉	1名
	古田土 百合子	土浦亀城	H24.9.9	【東京】 関東地域連合審査	東京	2名
	辻 博子	土浦亀城				
	西野 文子	湊	H24.10.7	【茨城】 関東地域連合審査	水戸	5名
	柳生 高人	阿見				
	小形 佳昭	内原				
	石山 明宣	勝田				
	川上 義高	湊				
		河野 康子	日立市	H24.11.25	【東京】 関東地域連合審査	東京
合 計						10名

# 「六十周年記念誌」 発刊編集後記

「六十周年記念誌」発行の中心になつた小野崎紀男さんから編集後記をいただきました。今回の記念誌発行について、示唆に富んだ内容ですので、ぜひ参考にして下さい。

編集員 小野崎 紀男

記念誌の「あとがき」にありますように、取り組みをしてから、思ったより資料が散逸していて手間がかかり、未曾有の大震災にて半年ほど作業場を失うなど、色々なことがありました。やっと弓友に届けることができ安堵するとともに、ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。(六十周年誌を発行したのは、今のところ愛知県弓連、神奈川県弓連と島根県弓連です。茨城が4番目でしょうか。愛知と島根は五十周年記念誌を発行していません)

今回は、七十周年か、七十五周年記念誌となるでしょうが、私たちは80歳を越える年齢になりますので参加は無理でしょう。そこで苦勞話を含め参考になるだろうと

思い、誌面をさいていただきました。

## ○資料・データを記録保存すること

まず、原稿を書くには、資料・データが必要です。今から役員(県連、地区役員)は代議員会、総会での資料、行事・大会の記録・写真などをきっちりと保管・保存してください。また会員(弓友)の消息(今回は、墓地を探索して2名確認)等を記録しておくことです。(資料が多いのは取捨選択して作成できますが、無い資料は増やせません)

## ○原稿の作成

本の企画を決めて、「全部統一したソフト」で原稿を依頼し回収する。今回はワードでしたが、高度なもので送られてきたところは、誤字があっても修正できず、プロに依頼すれば高くつきます。

## ○編集作業

A4縦判の設定で計画し編集を開始、文章・表・写真の配置とペーじのつなぎには苦勞しました。

特に称号受有者の所は、写真と名前経歴が4列の形となり、挿入するとズレが生じて難儀しました。次回編纂のときには、パソコンがある程度出来て、やる気のある人を期待します。(あと百年以上は残るものを作るのです。素晴らしいことだと思いませんか)

校正する時は、パソコン上より印刷物のほうが誤字などを発見しやすいです。歴史の背骨でもある「年表」は、他の章における記録の年月日、行事・大会名などとの確認もあるので特に念には念を入れる。(正確に記すために書き換え(上書き)を数十回おこないました)

## ○印刷・出版

表紙、紙、色、文字など装丁、価格等の決定(編集のときから想定しておく和良好的)は、当初に計上した費用でペイできました。(実費配布ということで儲けはなく、事務費、配送費で赤字?)

☆「市町村史を発行できない(しない)ところは滅びる」とも云われる。つまり、それだけの余裕のないところは危ういということです。しっかりと活躍した弓友たち

の記録・業績の一端でも後世に残すことは重要ではないでしょうか。

## 編集後記

「弓道いばらき」第35号をお届けいたします。最近では情報発信をインターネットのホームページでおこなうことが主流になってきました。茨城県弓道連盟もホームページの充実をはかっていきたいと考えています。いつも最新の情報を掲載できるよう、皆さまからの情報をお待ちしております。また、ホームページを立ち上げている支部におかれましてはぜひ茨弓連ホームページからのリンクを張れますよう、ご連絡をお願いいたします。

茨城県弓道連盟ホームページ  
<http://ibakyuren.com/>  
茨城県弓道連盟 広報部

